

今月のテーマは…

地域経済の発展、快適な生活に不可欠  
インフラ整備の現状



私たちが便利で快適な生活を送るのに重要な役割を果たす「インフラ」。少子高齢化や人口減少など社会構造が大きく変化する中で、インフラを適切に整備し、まちづくりに生かしていく必要があります。



—インフラとは何ですか。  
市長 産業や生活を成り立たせるために必要な施設のことです。社会で共有する性格を持つのが特徴で、道路、鉄道、上下水道、港湾、ダムなどの産業基盤や、学校、病院、公園などの生活基盤を指します。インフラの整備が進めば、安全・安心の確保につながり、生活の質が向上するなど、社会のベネフィットを高める効果があります。また、インフラの整備状況は企業が投資する決定要因にもなるので、今後も市の魅力を高めていく上で重要です。最も代表的なインフラ整備は道路整備です。

—なぜ道路を整備する必要がありますのか。  
市長 西尾市は高速道路や鉄道本線から離れているため、経済や文化の広域的な交流を図るための交通ネットワークの形成には、幹線道路などの整備が不可欠です。道路の種類に応じて、国や県、市が協議しながら早期整備を進めています。  
—現在どのような整備を進めていますか。  
市長 国は、名古屋市と豊橋市を結ぶ国道23号名豊道路の整備を進めています。県は、米野町から西小柳町を東西に結ぶ都市計画道路衣浦岡崎線の4車線化工事をはじめ、西尾幡豆線、安城一色線などの道路を整備しています。市の整備のうち主なものでは、県立特別支援学校の建設に合わせ、岡崎一色線（市道須脇15号線）や国道247号から幡豆支所までの区間で中部幹線を整備しています。中部幹線は31年3月の利用開始を目指しています。

—道路を造るのになぜ時間がかかるのか。  
市長 道路を造るには、国や県など関係機関との協議、地域での説明会などの手続き、

事業の内容について、詳しくは土木課建設担当 ☎65・2143へお問い合わせください。

—事業を早く進めるためにどうしていますか。  
市長 国や県の事業では、1日も早く完成していただくように国土交通省本省や中部地方整備局、名四国道事務所、県に対して機会あるごとに要望活動をしています。市の事業では、財源を確保するため、国の交付金や県の補助金などを有効に活用できるように研究しています。

事業用地取得の交渉などに時間が必要で、土地・建物などの補償費や側溝や舗装などの工事にも多くの費用がかかるため、短期間では終わりません。



4車線化が進む上矢田南交差点付近

## 元禄赤穂事件 吉良義周よしちかの悲劇

### 元禄赤穂事件

元禄14(1701)年の3月14日、江戸城の大廊下で赤穂藩主・浅野内匠頭長矩たくみのかみながのりが、幕府の典礼を取り仕切る高家肝煎の吉良上野介義央よしちかを背後から斬りつける事件が起きました。浅野が斬りつけた理由は不明です。浅野は即日切腹、赤穂藩浅野氏は取りつぶしとなりました。義央はこの件で幕府から落ち度を問われることはありませんでしたが、自ら高家の職を辞し、吉良家当主を退きました。

浅野の切腹から1年半後の元禄15(1702)年の12月14日、大石内蔵助おおいの内蔵助が率いる47人の赤穂浪士が、江戸の吉良邸を急襲。義央はじめ20人を殺害し、19人に傷を負わせました。

### 最後の当主・吉良左兵衛義周さひょうえ

隠居した義央の後継者として吉良家の当主になったのは、義央の実孫で養子の吉良左兵衛義周でした。赤穂浪士討ち入りの際、17歳の義周は応戦し重傷を負います。背中に傷を受けたため、逃げたのではないかと流布されましたが、赤穂浪士の一人、武林唯七たけぼりただしちは「義周様の傷は私が付けました。長刀ながなたを持ってのお働きはご立派。背中の傷は私たちが取り囲んだ時の傷で、決して逃げ傷ではございません」と称えています。

しかし、幕府は義周に対し、襲撃を防げず父を



義周木造坐像(法華寺所蔵)

討たれた落ち度を罪に問い、諏訪(現在の長野県諏訪市)への幽閉という裁定を下しました。討ち入りを亡君のための義拳と称賛する世論に勝てず、吉良家を取りつぶしとした幕府の裁定は、若き義周にとってどんなに辛いものだったことでしょう。

諏訪に幽閉されて3年経った宝永3(1706)年、病に侵された義周は、21歳の若さでこの世を去ります。足利将軍家一門の名家、三河吉良氏三河吉良氏の嫡流は、ここに断絶しました。

### 諏訪と吉良に残る義周の墓

義周が葬られた諏訪の法華寺には、義周の墓が現存しています。6月には吉良義周公慰霊会によって木造坐像が製作され、開眼供養が行われました。また、吉良家の菩提寺である華蔵寺(吉良町)にも、義央の墓と同時期に作られた義周の墓があります。

華蔵寺を訪れ、若くして散った義周の無念に、思いをはせてみてはいかがでしょうか。

## 第316回吉良義央公毎歳忌

義央の命日12月14日には、毎歳忌が営まれます。普段は見るできない義央の木像や、義央が寄進した経蔵にまつられている白衣観音を公開。甘酒の振る舞いや吉良小唄の披露、講演なども行われます。

**時**12月14日(金) 午前8時50分

**場**華蔵寺

